第１回　奈良県がん予防対策推進委員会

日時：平成２２年８月１２日（木）
午後２時～４時

場所：奈良医大厳橿会館・２階研修室１

次　　　第

1　開　会

2　議　題

（１）（仮称）健やかに生きる構想案について

（２）本県のがん検診の現況と課題について

（３）その他

3　閉　会

資料一式

（資料１）がん予防対策推進委員会設置要綱

（資料２）（仮称）健やかに生きる構想案（抜粋版）

（資料３）昨年度の各がん部会開催状況と主な論点

（資料４）がん検診に係る精度管理指標について

（資料５）がん検診の受診率等について

（資料６）がん検診受診率向上に向けた当面の取り組み（未定稿）

（資料７）奈良県がん対策推進計画のアクションプラン
（「がんの早期発見」分野）について（たたき台）

（資料８）平成２２年度従事者講習会について

（資料９）今後のスケジュール（案）

（参考資料１）奈良県がん対策推進計画【概要版】

（参考資料２）がん検診の受診率について

（参考資料３）各がん検診実施要領の改正（新旧対照表）

（参考資料４）平成２１年度がん部会資料（抜粋）

（参考資料５）がん検診の精度管理項目（厚労省）

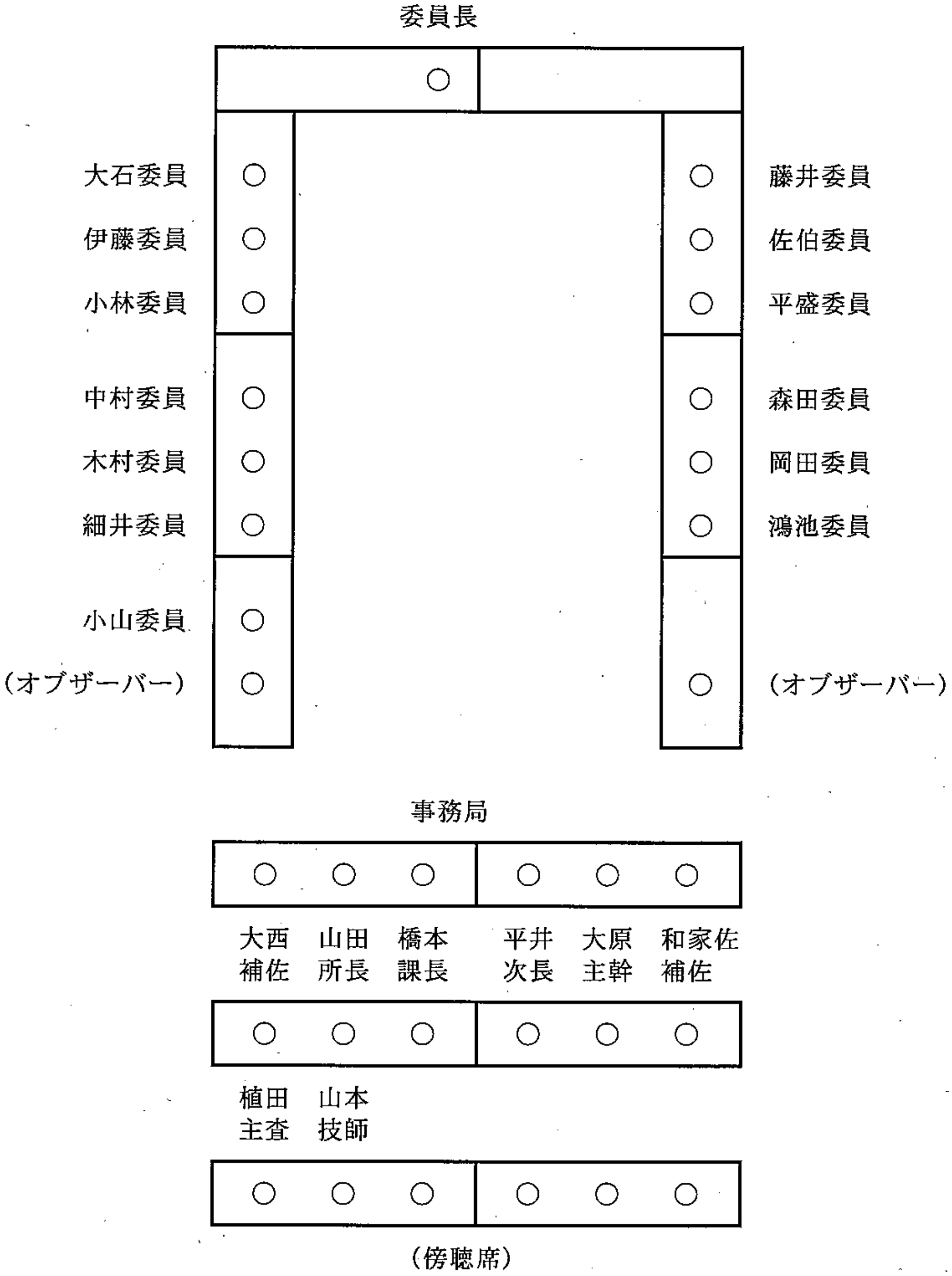
（参考資料６）がん対策推進基本計画　中間報告書
（厚労省平成２２年６月１５日）（抜粋）

奈良県がん予防対策推進委員会　委員名簿

区　分	氏　名	役　職
学識経験者（胃がん）	大石　元	奈良県健康づくりセンター所長
	伊藤　高広	奈良県立医科大学放射線医学教室助教
学識経験者（子宮がん）	小林　浩	奈良県立医科大学産婦人科学教室教授
学識経験者（肺がん）	中村　忍	奈良県立医科大学名誉教授
	木村　弘	奈良県立医科大学第二内科学教室教授
	國安　弘基	奈良県立医科大学分子病理学教室教授
学識経験者（乳がん）	細井　孝純	済生会中和病院外科部長
	小山　拡史	市立奈良病院外科部長
学識経験者（大腸がん）	中島　祥介	奈良県立医科大学消化器・総合外科学教室教授
	藤井　久男	奈良県立医科大学中央内視鏡・超音波部病院教授
学識経験者（公衆衛生）	佐伯　圭吾	奈良県立医科大学地域健康医学教室助教
奈良県医師会	平盛　裕子	奈良県医師会理事
集団検診機関	森田　隆一	奈良市総合医療検査センター局長
都市衛生協議会	岡田　豊	大和郡山市保健センター所長
市町村看護職員協議会	前田安弥子	奈良市保健所健康増進課長
	鴻池　通子	宇陀市大宇陀保健センター所長

第１回　奈良県がん予防対策推進委員会

日　時：平成２２年８月１２日（木）午後２時～４時
場　所：奈良医大厳橿会館・２階研修室１



Column コラム

金沢市医師会における個別検診によるがん検診の例

金沢市においては、健康増進事業としてのがん検診は、5がんについてすべて個別検診として行われています。とりわけその中でも、肺がん検診と胃がん検診は歴史が古く、他のがん検診の方式のモデルとなっています。その特徴は、ユニークな読影会をはじめとする独自のシステムにより、医師会において、がん検診の精度管理が非常によく行われているという点にあります。金沢市の健康増進事業データを、最近、厚生労働省から示された数値目標を基準としてみると、いずれも全国市町村の上位に位置しています。ここでは、金沢市の取り組みを肺がん検診・胃がん検診の例を引いて紹介します。

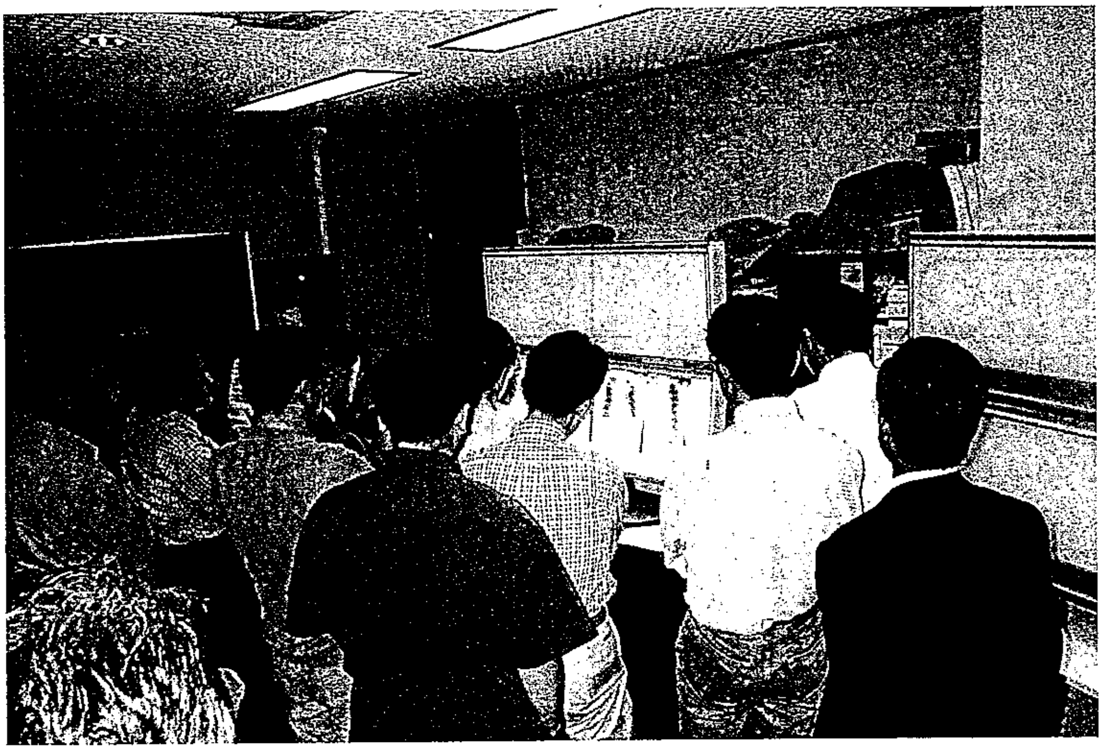
検診は検診医療機関、検診担当の医師会メンバーによって行われます。このメンバーは、毎年4月に行われる医師会による検診の研修会に出席したメンバーを有資格者として、その中から選ばれます。

肺がん検診は、昭和63年に老人保健事業に加わりましたが、金沢市医師会では金沢市との協議により、他のがん検診同様に医療機関における個別検診として行うこととしました。肺がん個別検診を行うにあたっては、各医療機関のX線装置の違いによる画質の不均一、検診医の読影能力など、精度管理上、幾多の問題がありましたが、肺がん検診読影委員会による2次読影やレフェリーによる最終判定、症例検討会による要精検者の全例チェック、肺がん検診精度管理委員会の設置などのシステムづくりを行いました。

胃がん個別検診は従来、医療機関でのX線検査のみで済まされていましたが、肺がん検診の成果を踏まえ、センター方式での精度管理を行う計画が進み、平成4年から胃X線フィルムを全例医師会に集め、胃がん検診読影委員会で2次読影、さらに翌年からレフェリーによる最終判定を行うなどのシステムで行いました。初年度は、要精検率が1次読影、2次読影ともに18%台でしたが、レフェリー判定をはじめとする精度管理の徹底によって、いずれも年々低下しました。特に、2次読影の要精検率は6%前後となったにもかかわらず、高いがん発見率、早期がん比率が維持された結果でした。

以上2つのがん検診は、いずれも150ヶ所を超える、いわゆるかかりつけ医を中心とした多数の医療機関による個別検診ですが、読影委員会、症例検討会などの厳重なチェック、検診結果のみならず、精検結果の医師会の集計・分析など、十分な精度管

理が行われており、今後、市民のがん死亡率減少に貢献するものと期待されます。さらに、肺X線フィルム読影専門医とペアで行う読影委員会や症例検討会に参加することによって、検診医の読影力の向上、撮影技術の改善をもたらしています。同時に、専門医との交流も進み、病診連携の1つとなるなど、一般診療に対しても良い影響を及ぼしており、かかりつけ医の質の向上につながっています。また、乳がん検診、大腸がん検診、子宮頸がん検診など他のがん検診においても、それぞれ精度管理委員会を設置し、精度管理を行い、その成果を関連学会へ報告しています。



● 図II-3-1　胸部X線写真検討の様子

「かかりつけ医のためのがん検診ハンドブック
～　受診率向上をめざして　～　」より
平成２１年度厚生労働省がん検診受診向上指導事業
がん検診受診向上アドバイザリーパネル委員会